

中学校道徳における、生徒による自己評価の有効な活用と分析（1年次）

—生徒の評価と教材開発・選定・授業手法・指導力向上への反映—

中山 芳明（京都市総合教育センター研究課 研究員）

文部科学省が「特別の教科」として、小中学校の道徳について新たな学習指導要領を告示した。そこでは「学び、議論する道徳」という視点を取り入れた新しい心の教育の形が示され、道徳教育を活性化していこうという視点が見て取れる。

そこで、生徒による自己評価を導入・活用し、その評価平均を教材自体の参考点にとらえ、そのデータをもとに教材の精選・授業形態の見直し、生徒・教師が毎週の道徳の授業を継続して意識する材料とならないか、更にそれを今回の告示に語られた「文言による評価」に活かすことはできないかと考え、様々な取組を「生徒による自己評価」を軸に、関連付け、統合するモデルを考案した。

第1章 道徳の時間の評価

第1節 道徳の時間が抱える問題

「特別の教科 道徳」が実施された場面で、生徒をどう評価したらいいのかは、まだ試行・検証の初期段階だというのが現状である。そこで、道徳の評価の実施にあたって、知っておくべき二種類の評価とその詳細を以下の枠内に示す。

道徳の時間での二種類の評価

【生徒の学習状況の評価】

生徒側の評価であり、道徳の授業で生徒自身がどのように変容したかを、生徒に示す評価である。

【指導の評価】

教師側の評価であり、道徳の授業が効果的に行われたかを検証し、教師が道徳の授業力を高める材料とする評価である。

道徳の評価に対する多くの批判的な意見は、この二つの評価を混同することによって生じている。

第2節 学習指導要領一部改正が目指すもの

二つの評価のうち「生徒の学習状況の評価」はこれまで実施することが大変困難であるとされてきた。だからこそ、平成27年3月の学習指導要領の一部改正で、評価するのは「道徳の授業時間内での変化」であることが明確にされた。

第2章 「生徒による自己評価」を活用した運用システムの考案

第1節 評価が生み出す好循環(スパイラル)

教員が質の高い道徳の授業を維持するためには、その授業のねらいの達成度という具体的な指針が必要である。そこで PDCA のサイクルの軸に「生徒による自己評価」を据えて、「指導の評価」

と「学習状況の評価」を測る基準とした。更に自己評価の蓄積と活用が道徳の取組にプラスのフィードバックを起し、向上の好循環(スパイラル)を発生させることをねらっている。

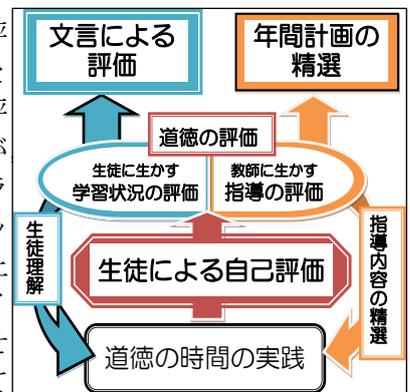


図1 システムの運用モデル

第2節 自己評価活用プログラムの開発

道徳の評価は「他の生徒との比較による相対評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価」である。この「個人内評価」であることを実現するために、生徒による自己評価を評価の軸に据えた道徳教育の運用システムを構築した。

いわゆる「5, 4, 3, 2, 1」などの尺度で測る「ルーブリックの思想」を生徒の自己評価に応用し、生徒自身が自己の道徳性の成長を測定することを考える。ワークシートを以下の図2に示す。

発問④ 今回の授業を終えて、	とても ←	ふつ	→	ぜんぜん
① 共感・感動することがあったか	5	4	3	2 1
② 深く考えることができたか	5	4	3	2 1
③ 自分のこれからの考え方に影響があったか	5	4	3	2 1
④ 考えたことを大切にしていこうと思えたか	5	4	3	2 1
⑤ 教材資料は心に響いたか	5	4	3	2 1

今日の授業で () について考えたことを書きましょう。

2年 () 組 () 番 ()

図2 尺度評価を含んだ道徳のワークシート

生徒による自己評価の実施と蓄積によって、生徒の年間を通しての道徳性の成長、授業ごとの変

化などを、教師が説得力を持って評価できるようになると予想される。

また「持ち回り道徳」等への効果の付与や「文言による評価」への可能性も構想した。

第3章 「生徒による自己評価」を軸とした運用システムの実践

第1節 発展初期のA中学校における実践

A 中学校の現状と教員の意識を調査したうえで、「生徒による自己評価」を尺度化した全員分のデータを継続記録し、経年変化や生徒理解にどう益するかを読み取った。(図3)毎週の記録を比較することで、その生徒の道徳の内容項目よっての意識や学びの違い(図3-ア)や、クラスごとの受け止めや教材自体の課題(図3-イ)が浮き彫りになった。

また、自己評価の分析が「持ち回り道徳」の取組にどのように効果を付与できたかもデータを比較することで実証した。

度合い分析の継続記録から読み取れるもの

- ・その授業での生徒一人一人の受け止め
- ・クラス単位での授業の受け止め
- ・クラスごとの傾向の把握
- ・その道徳教材の評価参考点
- ・道徳の授業の年間計画の改善点
- ・その道徳の授業設計の改善点

第2節 発展中期のB中学校における実践

B 中学校の現状と教員の意識を調査したうえで、「生徒による自己評価」の研究が、毎週の道徳の授業設計にどう活用できるかを実践した。また、最終的には生徒による自己評価を通年での「生徒の良さを認める文言評価」につなげることも試行する。

第4章 実践研究の成果と今後の展望

第1節 A 中学校での実践研究で見えたこと

研究を行うことによって、教員の意識や生徒の学びに意識の向上が見られ、道徳の時間に生徒たちが大きな期待を持って臨んでいることが確認された。また今後、一年間を通して記録された自己評価を、次年度の道徳教育にどう継続させるかについて検証する。

第2節 B 中学校での実践研究で見えたこと

授業での生徒による交流が道徳的価値への共感や定着に繋がることから、道徳に学び合いを積極的に取り入れ、その検証から今回の研究で特に効果的であったことを以下に示す。

生徒による自己評価の研究で特に効果的だったこと

- ・教員の道徳教育への意識の向上
- ・生徒の道徳授業に対する受け止めの把握
- ・「持ち回り道徳」の運用効果の強化
- ・道徳の授業改善点を具体化
- ・道徳についての文言による評価のモデル化

第3節 今後の自己評価導入に向けての課題

本研究では「生徒による自己評価」の道徳の教科化との関連を考えた。「評価」という言葉は、教員の中に「生徒に優劣をつけるのが評価」というイメージがあり、道徳教育は評価になじまないという声もある。しかし、「ある事物や人物について、その意義・価値を認めること」という評価本来の意味合いで、生徒の意義・価値を見出すことが道徳の時間で言う「評価」なのだと思いを通してあらためて認識した。

その意味で、道徳の時間における最終の「文言による評価」が生徒の良さに意義・価値を見出す適切な評価になるようにこの研究をつなげたい。

組	生徒番号	実施日 内容項目 教材名	2015/9/29～持ち回り										2015/9/29～持ち回り										2015/9/29～持ち回り										10月6日										2015/9/29～持ち回り												
			4-(7)愛校心					1-(2)強い意志					2-(3)友情					4-(9)愛国心					4-(8)郷土愛					学校や仲間への誇りを持つ					〇〇剣士					あなたのライバル					バンクーバー朝日軍					故郷を考える							
			共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	クラス平均	共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	合計	クラス平均	共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	合計	クラス平均	共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	合計	クラス平均	共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	合計	クラス平均	共感・感動	深く考える	これからの影	考えを大切に	教材・資料	合計	クラス平均												
2組	1	ア	2	3	4	4	3	4	4	3	4	3	18	3	5	4	4	3	19	3	3	3	4	3	16	3	2	3	4	3	15	3	4	4	4	3	22	5	4	4	4	5	22	5	4	4	4	5	23	5	4	4	4	5	22
	2	5	4	4	4	5	5	5	5	4	5	24	3	3	3	3	3	15	5	4	4	4	4	20	5	4	4	4	4	20	5	4	4	4	4	20	5	4	4	4	4	20	5	4	4	4	4	20							
	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	4	4	4	4	4	16	4	4	4	4	4	16	4	4	4	4	4	16	4	4	4	4	4	16	4	4	4	4	4	16	4	4	4	4	4	16								
	4	4	3	3	4	4	4	4	4	4	22	4	5	4	5	4	22	4	3	3	4	3	16	4	3	3	4	3	16	4	3	3	4	3	16	4	3	3	4	3	16	4	3	3	4	3	16	4	3	3	4	3	16		
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
	7	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
	8	5	4	5	5	5	5	5	5	5	25	5	3	5	5	4	22	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
	9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
	10	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25	5	5	5	5	5	25		
1組	1組	イ	4.23	4.26	4.17	4.20	4.31	4.23	4.24	4.24	4.21	4.29	4.35	21.32	4.26	4.26	4.59	4.15	4.26	4.50	21.76	4.35	4.03	3.97	4.00	4.06	4.12	20.18	4.04	4.41	4.29	4.15	4.16	4.44	21.47	4.29																			
	2組	4.17	4.11	4.14	4.31	4.23	4.19	4.38	4.47	4.44	4.50	4.44	22.24	4.45	4.11	4.26	4.06	4.20	4.09	20.71	4.14	4.15	4.12	4.18	4.27	4.27	21.00	4.20	4.69	4.38	4.41	4.59	4.66	22.72	4.54																				
	3組平均	4.53	4.53	4.38	4.50	4.59	4.51	4.66	4.49	4.57	4.43	4.77	22.91	4.58	4.03	4.29	3.86	4.03	4.17	20.37	4.07	4.39	4.22	4.22	4.28	4.33	21.44	4.29	4.49	4.26	4.20	4.09	4.43	21.46	4.29																				
	4組平均	4.49	4.46	4.38	4.38	4.46	4.43	4.37	4.32	4.39	4.34	4.47	21.89	4.38	3.92	4.17	3.97	4.03	3.94	20.02	4.01	4.14	4.16	4.14	4.11	4.11	20.65	4.13	4.54	4.38	4.30	4.41	4.59	22.22	4.44																				
	学年平均	4.29	4.25	4.21	4.28	4.31	4.27	4.33	4.32	4.35	4.32	4.40	21.72	4.34	4.05	4.28	4.01	4.12	4.12	20.58	4.12	4.14	4.09	4.08	4.14	4.19	20.62	4.12	4.53	4.33	4.26	4.31	4.53	21.96	4.37																				

図3 度合い分析の継続記録の実践例